

1 東日本大震災発生直後の状況

卒業式が終わり、在校生が会場の後片付けをしていた時に、大震災は発生した。校舎は大破し、体育館の後部壁面が崩落しそうで、生徒を校庭に避難させた。保護者が迎えに来るまで校庭中央に避難させていたが、雪と寒さのため、残っていた60~70名ほどの生徒を、建物として唯一使用できそうな武道館に避難させた。避難所体験訓練をしていたので、生徒達は整然と並ぶ中で、次から次へと地域住民が武道館に避難してきた。巨大津波に襲われて命かながら避難してきた人たちだった。ラジオからは仙台港に10Mの津波が襲来と伝えていたが、周囲の状況は全くつかめていなかった。たちまち地域住民の方が多くなった。校長としてすぐ避難所設営を教職員に指示し、本部、救護所を設置した。避難設備が何もなかったことから野球部の夜間練習用の発電機、投光器2台を準備させ、ジェットヒーター2台、ブルーヒーター2台を設置し夜間に備えた。夕方には武道館は保護者との連絡が取れない生徒50名、地域住民350名の避難所と化し、野球場、校庭には避難の車がいっぱいとなった。町役場職員も到着したが、現状を一番把握しているのは教職員であることから、教職員主導の形で避難所はスタートした。また、家庭と連絡がとれない50名の生徒が武道館で一夜を明かすことから、家庭に事情のある教職員以外は、待機してもらった。半数は避難所の運営、半数は寒空の中たき火をして校庭に入る車の誘導・警戒にあたった。JX石油基地の爆発炎上と余震の中、まるで戦場のような一晚を過ごした。夕食のおにぎり1個が食べられたのは、午後9時過ぎだった。

2 被害の状況

- (1) 物的 校舎・・・大破し使用不可能
体育館・・・壁面崩落使用不可能
- (2) 人的 生徒1名が津波に流され死亡

3 学校再開に向けて

臨時校長会において、学校の被災状況、生徒・教職員の安否、七ヶ浜町の被災状況を確認。3月24日に修了式、4月21日に始業式を行うことを決定した。修了式は、隣接する亦楽小学校の教室を借り、放送による修了式を行った。

校舎・体育館が使用不可能の中、4月からの学習場所の確保について協議が行われ、亦楽小学校と向洋中学校に分かれてスタートする案が有力となったが、学校が分かれてスタートすることは避け、向洋中学校の特別教室も開放してもらい、なんとか七ヶ浜中学校全学年が向洋中の教室を借用する形でスタートする事が決まった。引っ越しに際しては、自衛隊の支援が受けられることとなり、隊員20名と大型トラック2台、向洋中、汐見小の教職員の協力もいただき、4月7日に行われた。また、それに伴い約1ヶ月にわたる武道館の避難所も翌日には閉鎖する予定となっていた。しかし、その晩に最大余震が発生し、武道館に行くと30名程度に減っていた避難民が震災当時と同じように満杯になっていた。それでも4月8日に避難所は閉鎖され、やっと学校再開に向けての準備に取り組める状況となった。始業式は4月21日、入学式は4月22日に七ヶ浜国際村大ホールで実施し、4月25日から向洋中学校での授業が始まった。

4 現状と課題及び校長としての決意

9月21日、台風15号北上の中、予定どおりに町内の教職員の協力を得て、チャーターしたトラック4台で、向洋中から七中の仮設校舎への引っ越しを完了した。今後、第二仮設校舎の建設、新校舎の建設、部活動場所の確保など様々な課題は山積であるが、献身的に働いてくれた教職員の姿に心から感謝と敬意を表するとともに災害に負けない、逞しく、自立していける七ヶ浜中学校の生徒の育成に向けて全力を尽くしていきたい。